

【独居高齢者等見守りサポーター事業】について

区役所としてのわらい

高齢化の進展と独居高齢者、高齢者のみ世帯の増加に伴い、地域資源や各種福祉・介護サービスから孤立した高齢者が増えており、外部の目が入らないことで虐待等の問題が深刻化し、発見が遅れることで十分な対応が取れない。このような状況を解消するために、定期的な訪問により当該世帯の抱える課題を早期に明らかにして、必要に応じて医療・介護サービスにつなげるなど、支援者による課題への早期かつ効果的な対応につなげることを目的として実施する。さらに安否の確認も行うことから、孤立死を減少させる効果も期待できる。(予算要求額 7,121,000 円)

☆公的責任として高齢者訪問を実施し高齢者の実態を把握することは非常に意義深く、画期的な試みでありその効果は期待できる。

事業をより効果的に展開するために考えられる課題と提案

○スーパーバイザー（以下SV）、ボランティアリーダー、ボランティアをめぐる課題

・SVとつなげ隊の質の担保

対象者 1200 人を訪問するだけならば計算上可能なのかもしれないが、専門性の高い多くの付帯業務があり、職務遂行上、質的に担保ができるのか

⇒天王寺区の地域性から考えてSVは3名体制がのぞましい。今年度が無理ならば次年度から3人体制に増員。今年度は区役所常勤職員が専任できる体制をつくる

⇒つなげ隊については4名程度の専従チームをつくり事業について精通している職員を増やす。

・ボランティアリーダーの確保と研修

業務の高度さから考えると報酬が低い

⇒報酬額の見直し

・ボランティアの確保と研修

⇒学生や公募のみでなく地域の活動に関わっている人たちを巻き込む

⇒学生については通年に授業の一環として関わってもらえないか

⇒より参加しやすくするために名称を「ボランティア」ではなく「サポーター」にする(事業名称と一致させる)

○情報管理について

・集めた情報を見守りに関わるすべての人たちが共有できるかどうか为本事業の要

⇒集めた情報を一元的に管理するとともに、個人情報保護には配慮しつつも、命に関わることでもありできるだけ状況に応じて開示できるシステムを整備

⇒情報開示が無理ならば緊急事態が生じた場合に区役所が家族等関係者に直接連絡する体制を整備

○評価について

- ・このような事業については評価が難しいのではないかと。数字もひとつの指標として重要であるが、それ以外のことが大事であろうし、短期間で効果が表れない事象もあるのでそれも考慮した評価の方法が必要。

⇒ 1年後のふりかえり評価のための指標作りに取り組むこと

○区役所としての実施体制

- ・区役所が行政として主導的に事業に関わることが必要
 - ⇒ 窓口や役割を明確にするとともに、担当課間の連携を強める
 - ⇒ 担当者自らが実働できる体制づくり
- ・地域や市民からの“気になる人”についての情報をどのように集約するか
 - ⇒ 通報窓口の明確化とPR

○各団体・システムとの連携（民生委員・区社協・包括支援C・地域・サービス事業者・医療）

- ・本人が継続的な見守り訪問を希望しない場合には民生委員・地域のなにげない見守りが不可欠
- ・月に1回程度の見守りでは孤独死の防止・早期発見は難しいのでやはり民生委員・地域の日常적인見守りが必要
- ・比較的課題の少ない高齢者については地域の喫茶や食事サービス、介護予防教室等につなぐ
- ・課題解決が必要なケースに関しては専門家の関与が必須

『独居高齢者等見守りサポーター事業』実施にあたっての提案

☆『独居高齢者等見守りサポーター事業』を効果的に実行するために、高齢者をめぐる3本柱を立てて重層的に取り組むことが必要

○『独居高齢者等見守りサポーター事業』の実施

○地域による見守りの輪づくり

- ・これまでも各地域ごとに高齢者見守りや地域の輪づくりには取り組んできているが、地域によってその活動に濃淡がある。

⇒他地域の実践例を紹介し見守り活動に対する動機づけとなる「地域活動フォーラム」(仮称)を開催する。

○区内高齢者支援システムの再構築（現存の社会資源の連携強化）

- ・既存の区内高齢者関連会議の活用
- ・サービス事業者連絡会の活用
- ・三師会（医師・歯科医師・薬剤師）との連携
- ・地域包括支援センター、在宅サービスセンターブランチの位置づけの明確化

“区民の命を守る”ために区が行政として主導的に関わることが不可欠

○事業名称

独居高齢者等見守りサポーター事業

○事業背景、課題

高齢化の進展と独居高齢者、高齢者のみ世帯の増加に伴い、地域資源や各種福祉・介護サービスから孤立した高齢者が増えており、外部の目が入らないことで虐待などの問題が深刻化し、発見が遅れることで十分な対応が取れない。

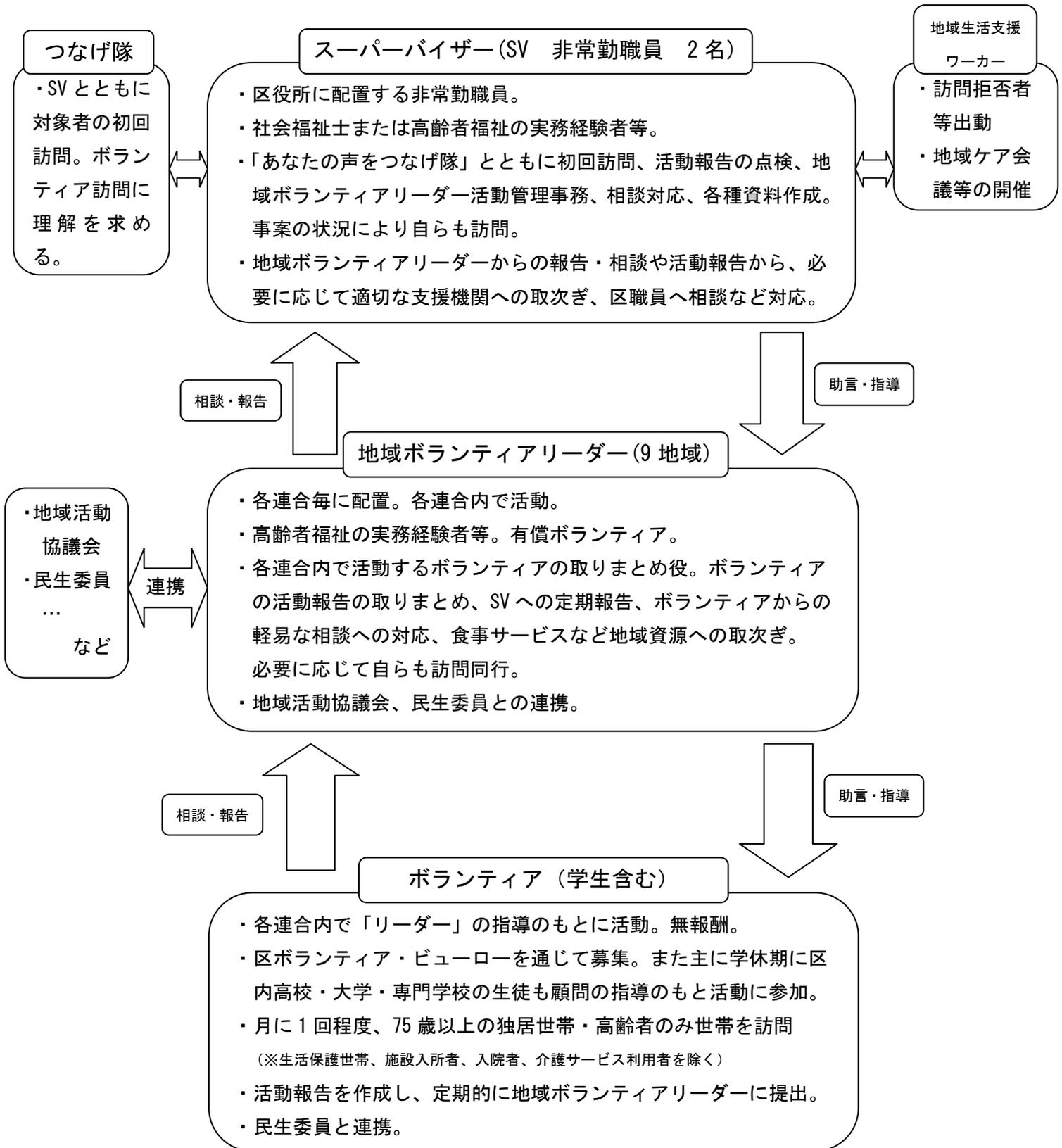
○事業概要

- ・ 75歳以上の独居世帯、75歳以上で構成される世帯すべて（ただし介護サービス利用世帯・生活保護受給世帯など、定期的な外部の見守りが入っているケースを除く）を対象に、ボランティア（一般の方・学生等）による定期的な個別訪問を実施。医療・介護・虐待対応等を要する者の早期発見、早期対応を図る。
- ・ ボランティアを統括する地域ボランティアリーダーを各地域ごとに地域活動協議会などで選出。各地域で活動するボランティア（一般の方・学生等）からの相談に応じるほか、記録・相談などから支援を要するケース・問題を抱えたケースなどについて、区職員（非常勤職員 SV）に相談し、必要な支援が行われるようつなぐ。
- ・ ボランティアを統括する SV（非常勤職員）を区役所に配置。地域ボランティアリーダーからの相談対応、記録の点検、資料作成などにあたるほか、事案の状況に応じて適切な機関へ取り次いだり、自らボランティアや区職員とともに訪問したりするなど必要な対応にあたる。

○事業効果

- ・ 独居高齢者、高齢者のみ世帯に外部の目が入ることで、当該世帯の抱える課題が早期に明らかになり、対応の選択肢が増し支援者による有効な支援につながることを期待できる。
- ・ また、定期的な見守りを行うことで、必要に応じて医療・介護サービスにつなげ、少しでも長く住み慣れた天王寺区で暮らせることができるとともに、安否の確認も行うことから、孤立死を減少させる効果も期待できる。

「独居高齢者等見守りサポーター事業」役割分担等説明資料



「独居高齢者等見守りサポーター事業」スケジュール(イメージ)

天王寺区役所作成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ボランティア	◎ SV配置	準備業務	◎ 研修		学生ボランティア参加				学生ボランティア参加			学生ボランティア参加
ボランティア	ボランティア募集		◎ 研修	随時募集・研修								
第1グループ	特に支援を要するケースに対し、地域包括支援センター・ランチで支援		第1グループの各地域での取組				継続的なボランティアによる訪問(3月以降も継続)					
第2グループ	特に支援を要するケースに対し、地域包括支援センター・ランチで支援					第2グループの各地域での取組			継続的なボランティアによる訪問(3月以降も継続)			
第3グループ	特に支援を要するケースに対し、地域包括支援センター・ランチで支援								第3グループの各地域での取組			